



今こそ、 一人ひとりを大切にする 政治を実現します。

参議院議員 **あいはらくみこ**

あの東日本大震災から、3カ月が経過しました。今回の未曾有の大震災により、いまだ多くの皆さんが、避難所等での避難を余儀なくされています。また、福島第一原子力発電所の事故も、いまだに収束の目途が立っていないのが実情です。そのような時に、民主党は何をやっているのかと、皆さんお怒りでしょう。確かにこの非常時に、政治の混乱を招いた責任は、与党民主党にあります。

私も民主党の議員として、率直にお詫び申し上げなければと思っています。そして、このような今だからこそ、政治の果たすべき役割を、原点に帰って考え直さなければならぬと感じております。

政治というのは人のために何をするかということだと思っています。弱い者に目を向けていく、そんな政治がいま本当に求められていると思います。「コンクリートから人へ」と言った民主党政権は、まさに、この国を支えている人たちに対する目線をもった政治を行わなければなりません。

2年前の政権交代の時には、確かに、人を大切にする視線を皆がもち、新しい政治を実現しようという熱気にあふれていました。あまり報道されてはいませんが、具体的成果も数多くあります。水俣病被害者救済法をはじめとした公害被害者への補償の解決、国鉄の不採用訴訟の補償問題の解決など、人を大切にする多くの政策を、民主党政権は実現してきました。また、地域主権改革など、地方を大切にする制度改革についても着実に進んでいます。

ですから、皆さんの力をいただいて、政権交代を果たしたこと自体は間違っていないかった。問題はその後、原点を忘れ、政治、政策よりも政局に走ってしまった、そのことによって、政治の信頼を失わせてしまったことにあると思います。

被災地の現状をみるにつけ、確かに、あまりに永田町の議論はそれと乖離しています。私は、その距離を埋める努力をしていきたい。そのためには、「国民の生活が第一。」の政策を、言葉だけでなく、スピード感をもって実行していくことが必要だと思っています。

そんな決意を新たに、原点を忘れず、今後も頑張っていきたいと思っています。

